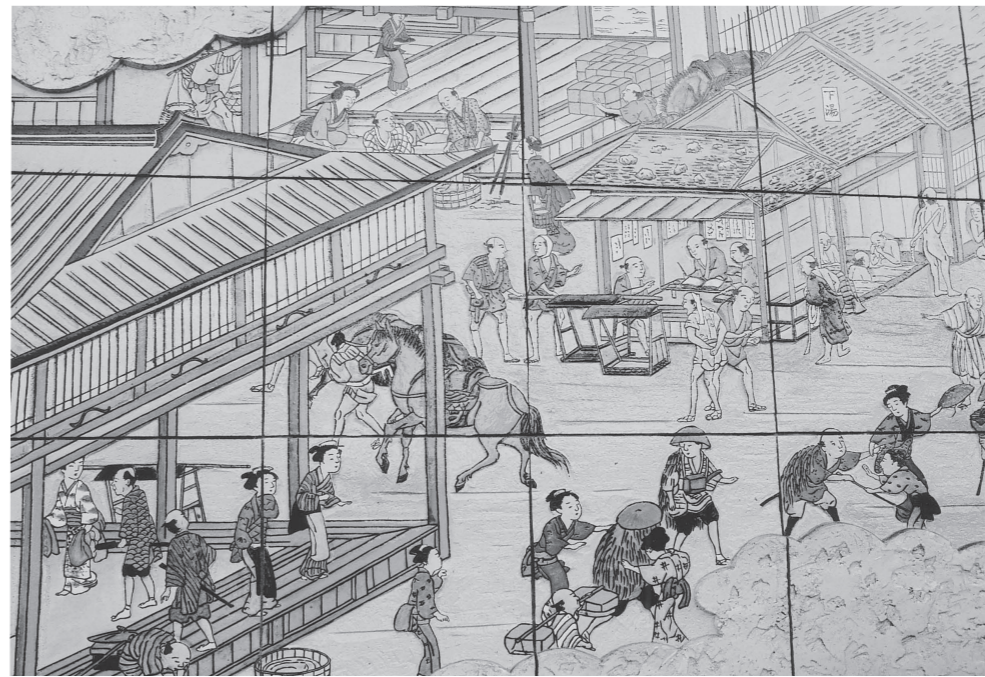


## 地域固有の歴史、伝統と一体となった誇れるまちづくり

国の認定を受け  
諸施策を推進しています

## 下諏訪町の歴史的風致とは何か



### ■「歴史的風致」とは・・・

地域固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地が一体となって形成してきた良好な市街地の環境をいい、ハードとしての建造物とソフトとしての人々の活動をあわせた概念です。

下諏訪町は、この歴史的風致を維持向上するための計画が平成21年3月に国の認定を受けたことに伴い様々な諸施策を展開しています。

### 下諏訪町歴史的風致維持向上計画の概要

下諏訪町は、中山道と甲州道中が合流する交通の要衝であり、中山道随一の温泉宿場町として、また全国に一万余の分社を持つ諏訪神社下社の門前町として歴史を重ねてきました。私たちは、国重要文化財諏訪大社下社秋宮と春宮の門前の温泉宿場町を舞台に、千二百年以上の歴史をもつ式年造営御柱大祭をはじめとした祭礼の伝統文化を受け継いできました。そして、下諏訪町固有の歴史的風致が形成されています。この計画の実行によりこれら下諏訪町の歴史的風致の維持向上を図ります。

■計画期間 平成二十年度から平成二十四年度

■下諏訪町の歴史的風致

下諏訪町に見られる歴史的風致には、諏訪大社式年造営御柱大祭の歴史的風致・諏訪大社下社遷座祭の歴史的風致・道中長持の歴史的風致・騎馬行列の歴史的風致・小宮祭の歴史的風致があります。

■重点区域 三角八丁及びその周辺の区域

■歴史的風致の維持向上に必要な事項  
文化財や歴史的建造物の保存と活用を通じて下諏訪町の歴史的風致の維持向上を図ります。

【事業名】

- 一 伏見屋邸(旧中村邸)復元修理事業
- 二 景観計画策定事業
- 三 騎馬保存会支援事業
- 四 町道石仏道線他美装化事業
- 五 案内施設整備事業



## ●下諏訪町の維持・向上すべき歴史的風致① □町の文化財等と歴史的な建造物の状況



下諏訪町内で外観などを見ることのできる建造物等の文化財は、国指定重要文化財が七棟、県指定文化財が一件、町指定の文化財が二十二件あります。このほかに歴史や民俗を伝える歴史的建造物が多数あります。

◇国指定文化財  
【建造物】○諏訪大社下社秋宮幣拝殿・左右片拝殿、神楽殿○春宮幣拝殿、左右片拝殿  
◇県指定文化財  
【史跡】○青塚古墳

◇町指定文化財  
【史跡】○浪人塚○樋橋茶屋本陣跡○中山道一里塚○魁塚○旧犬射馬場四至ノ標石○ジジ穴・ババ穴○西餅屋茶屋跡○下諏訪宿本陣遺構○尾掛松

【建造物】○東山田行屋○熊野神社本殿○春宮下馬橋○慈雲寺本堂○島木赤彦住居○鏡焼地尊堂  
などです。

## ●下諏訪町の維持・向上すべき歴史的風致② □下諏訪町で行われるお祭りの概要

●お舟祭り(おふねまつり)  
八月一日に行われる遷座祭の儀に続いて、青柴で作った大きな柴舟が当番地区の氏子によって春宮から秋宮へ曳行されます。お舟祭りでは道中長持などの催し物も繰り出します。

●小宮(こみや) 御柱祭  
諏訪大社式年造営御柱大祭が終了すると各地区にある神社(小宮)で行われる御柱祭です。各地のほかに講・マキ・小学校・企業などの組織でも御柱祭を行うところがあります。祭神に区別なく道祖神にも建てられます。



●諏訪大社式年造営御柱大祭  
(すわたいしやしきねんぞうえいみはいらたいさい)  
式年造営御柱大祭は「御柱祭(おんぼしら)」とよばれ、諏訪大社の諸祭事の中で寅年と申年に行われる大祭です。その年は御宝殿の建てかえと、その四隅に氏子によって御柱とよばれる大木を曳き建てることが行われます。下社では、「山出し」が四月の三日間、「里曳き」を五月の三日間行われ、町内には道中長持ちや騎馬行列などの神賑わいの催し物が繰り出されます。

●遷座祭(せんざさい)  
諏訪大社では、御祭神の御神座が半年ごとに移転するという他の神社には見られない古来の祭祀が伝わっています。二月一日に遷座の行列が秋宮から春宮へ向かい、八月一日には春宮から秋宮へ遷座が行われます。

## ●諏訪大社式年造営御柱大祭の歴史的風致 □諏訪大社の祭礼に係わる歴史的風致

「静と動」の町独自の歴史的風致を形成  
御柱祭山出し祭で御柱が通過する萩倉集落は、日常は静寂な農村住宅街ですが七年に一度の御柱祭の山出し祭の三日間は、御柱街道の沿道の家々は親戚、知人がこの祭に招かれたり、手伝いに頼まれたり、里の町内の休憩所(お宿)となったりして、ご馳走が並べられ大変な賑わいになり、御柱祭の熱気があふれます。

里曳き祭においては、まさに「人を見るなら諏訪の御柱」の言葉どおりの雑踏に埋め尽くされ熱気と活気にあふれます。一方、中山道沿いの往時の面影を残す伏見屋邸などの街並みを厳肅な「御柱迎え」が粛々と行列する風情は、熱気と活気溢れる御柱の曳行の場面とは異なる情緒を伝える情景です。御柱祭が終わると春宮と秋宮の社は厳肅な神域の静寂に包まれ、繁格子の街並みには人々の普段の営みが戻り、御柱祭の盛況が夢であったかのような落ち着いた温泉宿場町の風情が再来し、静と動の下諏訪町独自の歴史的風致を象徴しています。

諏訪に生まれた者は先祖代々諏訪のお明神様の氏子であると思っっている人が多くいます。この意識は諸建物の四隅に巨大な柱を立てる御柱祭に良く表れています。

私たちがこの御柱祭に対する熱い思いをもつて生まれ育ってきた諏訪大社の門前町かつ中山道と甲州道中の宿場町環境こそ、諏訪大社式年造営御柱大祭の歴史的風致といえます。

